



校長室だより

月立小学校 校長 鹿野田忠之
令和3年12月23日 発行
第 9 号

令和3年 御世話になりました 令和4年も どうぞよろしくお願いします

本日、無事2学期の終業式を終え、子供たちは冬休みに入ります。明日から子供たちの元気な声が聞こえなくなり、学校は、ひっそりとした寂しい日々となります。

さて、2学期もコロナ禍の中での学校生活となりました。子供たち、保護者や地域の皆様には、感染症拡大防止のため、様々なお願いごとをしてまいりました。学校の状況を御理解をいただき、御協力いただいたことによって、円滑に教育活動を進めることができました。改めて感謝いたします。

2学期始めの頃は、新型コロナウイルス感染症の拡大が猛威を振るい、この先どうなっていくのか…という不安でいっぱいでしたが、感染拡大の状況も徐々におさまり、考える対策を講じながら、教育活動に取り組んでまいりました。制約の多かった2学期でしたが、子供たちは日々元気に生活を送り、1学期に比べ、一回りも二回りも成長したと感じております。子供たちの頑張る姿に、私も力をもらいました。



冬休みが終わると、50日間（6年生は47日間）の3学期になります。3学期は、今年のまとめとともに、一つ学年が上がることへの喜びと希望をもたせる学期になります。令和4年が、子供たちにとって素晴らしい一年になるよう、教職員一丸となって頑張っていきたいと思っています。令和4年も学校へお力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

冬休みの思い出は？

「小学校時代の冬休みの思い出は？」と聞かれたら、皆さんは何と答えますか。私の小学校時代の冬休みの思い出といえば、「餅つき」と「ミニスキー」です。

「餅つき」は、我が家の年末の恒例行事でした。昔のことなので、かまどで餅米を蒸かし、杵と臼を使って餅をついていました。両親が会社員だったので、餅つきは祖父母と二人の弟たちとの作業でした。小学校高学年のときには、杵でつくことはもちろん、「あいどり（つき手に合わせて、臼の中の餅を返すこと）」もできるようになっていました。小学生だった頃は、遊びたい気持ちが勝って、餅つきが嫌で仕方ありませんでしたが、今考えると、日本の伝統的な行事に触れる貴重な機会だったように思います。

遊びといえば、プラスチックでできた短いスキーを長靴に固定して遊ぶ「ミニスキー」というものがとても流行していました。

我が家の裏にある堤防に弟と一緒にっては、ミニスキーで遊んでいました。今のようにゲームやスマホなどありませんでしたから、朝から晩まで、外でミニスキー…と言ってもいいほどでした。堤防の坂を滑り降りては上ることを繰り返し、自然と体力が付いたように思います。

冬休みは、年末・年始という特別な時期でもあり、各家庭や地域の催しなどに参加し、家族や地域の一員としての役割を果たす機会でもあると考えます。限られた期間の中ではありますが、様々な経験をして、有意義な冬休みを送ってほしいと思っています。そして、希望にあふれた令和4年、2022年を迎えられることを願っています。



月立っ子ギャラリー

今月も子供たちは楽しく、そして一生懸命学校生活を送りました。子供たちの元気な様子を御覧ください。

ホームページでは、子供たちの様子を毎日公開しています。ぜひ、そちらも御覧ください。

<http://www.kesennuma.ed.jp/tsukidate-syou/>



1・2年 給食センター見学



3・4年 大豆の収穫



5・6年 オンラインでアシストポロの校外活動発表会



火災想定避難訓練【消火器体験】



3・4年 蔕の糸取り体験



5・6年 こだま隊の協力を得て家庭科学習